

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：余市町観光地域づくり協議会

活動地域：余市町

活動におけるテーマ

『サステイナブルツーリズムによる地域SDGsの推進』

本事業への関わり：2年目

活動団体と地域の紹介

余市町役場

⇒各種情報提供、研修講師、
施設利用等

<https://www.town.yoichi.hokkaido.jp/>



一社)余市観光協会

⇒全体統括、事務

<https://yoichi-kankoukyoukai.com/>



JAよいち

⇒各種情報提供、研修講師等

<https://www.ja-yoichi.or.jp>



余市町観光地域づくり協議会

特非)北海道エコビレッジ

推進プロジェクト

⇒研修の企画、運営、
コーディネート



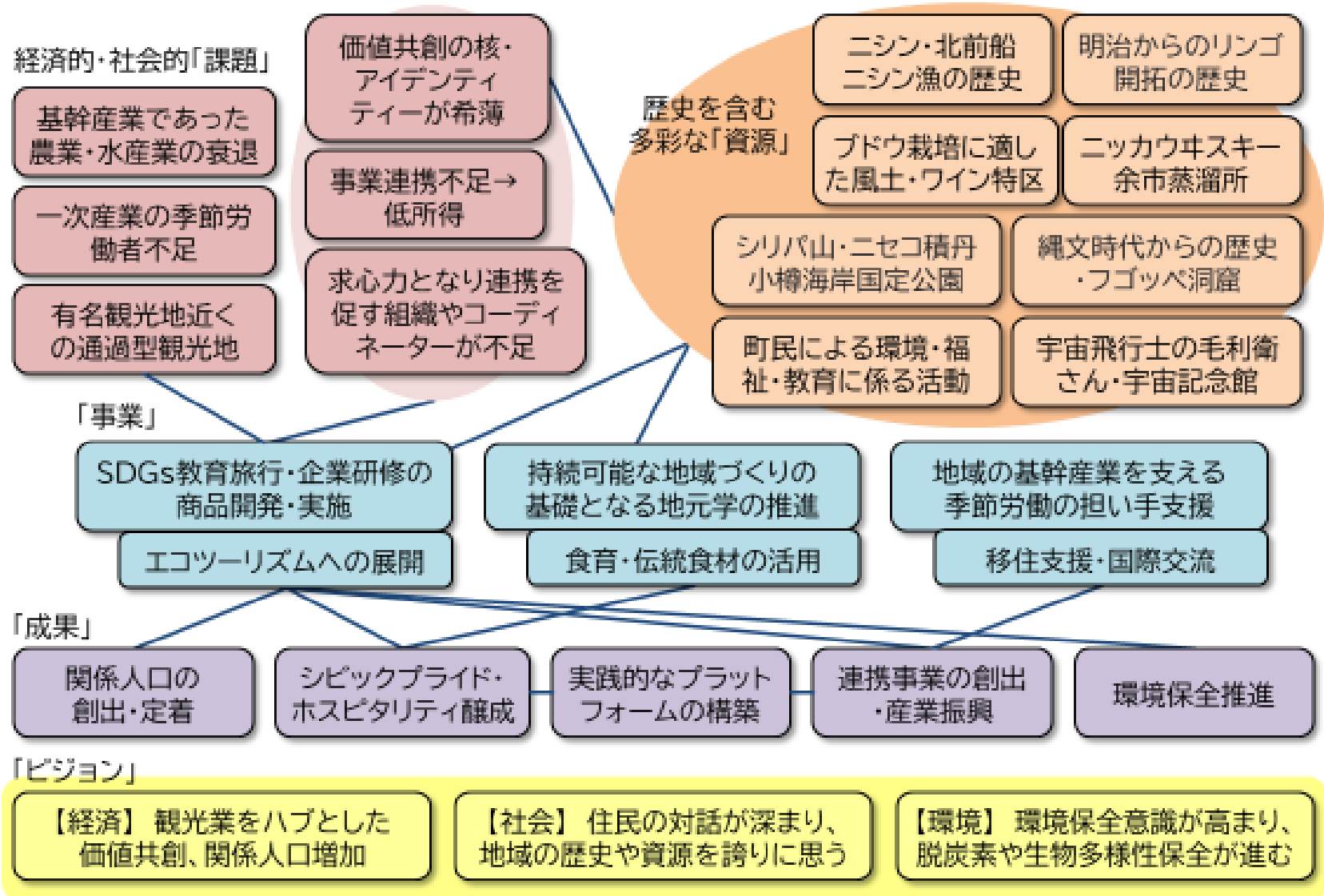
余市町漁業協同組合

⇒各種情報提供、研修講師等

<https://www.yoichigyokyo.com/>



現時点の地域版マンダラ



活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して 解決したい地域の課題

価値共創の核・
アイデンティティが希薄

一次産業の
季節労働者不足

異業種分野の
連携不足

有名観光地近くの
通貨型観光地

求心力となり連携を
促す組織やコーディネーター
が不足

地域のありたい未来

【経済】観光業をハブとした価値共創、関係人口の増加

【社会】住民の対話が深まり、地域社会の歴史や資源を誇りに思う

【環境】環境保全意識が高まり、脱炭素や生物多様性保全が進む

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

地域づくりに関連する
ステークホルダーが参加

- ・意見交換や情報共有する会（1年1回）
- ・「この指止まれ方式」でキーパーソンズ集まって実施（適宜）
リンゴ勉強会、フットパス、食育研究会（学校給食を考える会）、SDGs研修その他
- ・実践を通じて地域内外の人材や資源が生かされる仕組み

想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

多才な資源

- ・自然（シリパ山、海）
- ・歴史（縄文、開拓の歴史）
- ・産業（果樹農業、漁業、醸造）

人材

- ・地域キーパーソンズ（公共団体、生産者、飲食店、ワイナリー、NPO）
- ・地域外専門家（旅行代理店、大学、ガイド）
- ・ボランティア（学生、一般市民）

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月 1年後の地域プラットフォームのイメージ

ステークホルダー

←新たに加わってほしいSH



- ・学校関係者(教員、PTA)
- ・子どもグループ(子ども劇場、子ども食堂他)
- ・JC、商工会議所
- ・フリーガイド、通訳案内士
- ・ツアー受け入れ農家
- ・漁師(個人で協力してくれる方)

←想定している課題・阻害要因

- ・小規模生産者は忙しくて受け入れの人手が足りない
- ・JCは1年ごとに顔ぶれが変わる
- ・役場は町外との連携が難しい
- ・大規模グループを受け入れる飲食店、施設が不足

地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

【環境】

環境保全意識が高まり、
脱炭素や生物多様性保全が進む

【経済】

観光業をハブとした価値共創、
関係人口の増加

【社会】

住民の対話が深まり、
地域社会の歴史や資源を誇りに思う

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

①SDGs研修/地域の資源活用・課題解決

- ・大規模（200人）旅行のノウハウの不足
→旅行会社と協力した情報整理・受け入れの整備
- ・ガイド・インタープリターの育成

③一次産業活性化/担い手と関係人口の同時拡大

- ・労働需要が不安定（季節限定）
→マッチングの仕組みを整備
- ・求人情報、住居・住宅情報の不足
→公的機関（役場・農協等）の連携、
企業との協働（テレワーク・兼業・副業・プロボノ・研修）

②地元学/アイデンティティ・シビックプライドの醸成

- ・地元住民への情報提供、交流の機会の不足
- ・財源確保
→役場（社会教育課）、青年会議所、PTAその他地域団体との連携

今年度取り組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

①SDGs研修のブラッシュアップ

- ・プログラム教材開発（動画、基本データ）
- ・地域内外のネットワークの強化
（周辺市町村との広域連携・旅行業など異分野との連携）
- ・モニターツアー（学校、旅行関係者）

②地元学の勉強会開催

- ・地域資源の掘り下げ、磨き上げ（ニンシ、リンゴ、シリパ）
- ・地域住民の共通価値・協働意識の醸成
→地域プラットフォームへの巻き込みを期待

年間スケジュール

